



第四章 基本計画

基本構想を実現するための取組みの方向性を、戦略の柱～基本戦略～施策という体系で整理し記載しています。

また、特に町民や町内企業・団体の皆さんと力を合わせて取り組んでいきたい取組みを「おちから横断プロジェクト」としてまとめています。

いびなうもの

経年変化と人の手入れによって
ありのままの姿で生き残り続ける歴史的建造物の数々。

どこまでも広がる海を背景に、ゆったりと草を喰む牛の姿。

すれ違い様に元気な挨拶をしてくれる子供たちや

海や畑で採れた自然の恵みを分け合うお父さんお母さんたち。

小値賀島の観光資源は

歴史文化と恵まれた自然環境、

そして何よりも、この島で暮らす一人ひとりです。

旅を通じて、この島に魅了され、

島への移住を決意する人が後を絶たない所以です。

戦略の柱	基本戦略	施策	SDGs	防災	DX	シティプロモーション	少子化対策
<p>ひと</p> <p>互いに支えあいながら小値賀を担う人材を育み、確保し続けられるひとづくり</p> <p>→P00</p>	<p>1 「こどもを育てるなら小値賀」の環境を整え、こどもが健やかに学び育ち、安心して子育てができる基盤をつくる</p> <p>→P00</p>	<p>(1) 安心して子育てができる支援の充実</p> <p>(2) 結婚の希望を実現するための支援の充実</p> <p>(3) 基礎学力と社会を生き抜く力、郷土への愛着・誇りを育む小値賀ならではの魅力ある教育の推進</p>	●		●	●	●
	<p>2 こどもから大人まで、様々な繋がりの中で互いの成長を支えあえる地域社会を実現する</p> <p>→P00</p>	<p>(4) 安心安全にこどもを育てる教育環境の整備</p> <p>(5) 地域総参加でこどもを育て、子供の成長を支援する体制づくり</p> <p>(6) 文化・芸術・スポーツ活動を通じた出会いと生きがいづくり</p> <p>(7) 安定した生涯学習環境の整備</p>	●	●	●	●	●
	<p>3 住むため、住み続けるために必要な人材を確保する</p> <p>→P00</p>	<p>(8) 総合窓口体制による人材確保策の展開</p> <p>(9) しごとやくらし、地域など小値賀を支える人材の確保</p> <p>(10) 未来を支える人材の魅力化と育成</p>	●		●	●	●
<p>くらし</p> <p>いつまでも安心して生活できる持続可能なくらしづくり</p> <p>→P00</p>	<p>4 誰もが安心安全に生活できる基盤を充実する</p> <p>→P00</p>	<p>(11) 防災力強化の取組みの推進</p> <p>(12) 交通安全、防犯等の推進</p> <p>(13) 地域医療の充実</p> <p>(14) 健康・保健対策の推進</p> <p>(15) 高齢者福祉の充実</p> <p>(16) 住宅整備の推進</p>	●	●	●		
	<p>5 便利で快適に生活できる基盤を維持する</p> <p>→P00</p>	<p>(17) 社会基盤の適正な維持管理</p> <p>(18) 町内交通の維持と利用率の向上</p> <p>(19) 町外交通基盤の充実</p>	●		●		●
	<p>6 環境が保全され自然と共生する社会を実現する</p> <p>→P00</p>	<p>(20) 地域DXの推進</p> <p>(21) ごみの減量化</p> <p>(22) 自然との共生</p> <p>(23) 街並み景観の保全</p>	●	●	●		
	<p>7 産業の新しい時代への対応力を強化することで生産性の向上を図る</p> <p>→P00</p>	<p>(24) デジタル技術を活用した生産性の向上</p> <p>(25) 持続可能な産業体制の整備</p>	●		●		●
	<p>8 安定した付加価値の高い産品・事業により生産高・所得の向上を図る</p> <p>→P00</p>	<p>(26) 小値賀の特性を生かした商品開発とブランド化</p>	●		●	●	●
	<p>9 交流人口の拡大による島外からの活力を取り込む</p> <p>→P00</p>	<p>(27) 観光の振興等による交流人口の拡大</p>	●		●	●	●
<p>しごと</p> <p>地域の稼ぐ力と町民所得の向上によりやりがいのあるしごとづくり</p> <p>→P00</p>	<p>10 地域の特色を活かした良質で安定した労働の場を創出する</p> <p>→P00</p>	<p>(28) 先端技術等を活用した労働環境の改善支援</p> <p>(29) 担い手、後継者を確保するための基盤整備</p> <p>(30) 漁港の維持管理</p>	●		●	●	●
	<p>11 まちや地域への愛着と誇りを育み、地域活動へつなげ、持続可能なまちづくりを推進する</p> <p>→P00</p>	<p>(31) 安定した地区やまちづくり活動の運営基盤の整備に係る支援の充実</p> <p>(32) 愛着や誇りの醸成が取り組みに繋がり町内外への波及する好循環の形成</p>	●		●	●	●
	<p>12 全ての町民の人権が尊重される地域社会を実現する</p> <p>→P00</p>	<p>(33) 男女共同参画社会の実現</p> <p>(34) 人権に対する意識向上の推進</p>	●			●	●
<p>協働のまちづくり</p> <p>誰もが活躍できる協働のまちづくり</p> <p>→P00</p>	<p>13 骨太な行政基盤を構築する</p> <p>→P00</p>	<p>(35) 行財政改革の推進</p>	●		●	●	●
	<p>14 職員が能力を発揮しやすい組織体制を整える</p> <p>→P00</p>	<p>(36) 職員の確保と育成</p> <p>(37) 業務環境の変革</p> <p>(38) 職場環境の変革</p>	●	●	●	●	●
	<p>15 公共空間の豊かな活用を図る</p> <p>→P00</p>	<p>(39) 公共施設の適正管理</p>	●	●			●
<p>行政力</p> <p>それぞれの施策を確実行する行政力づくり</p> <p>→P00</p>							

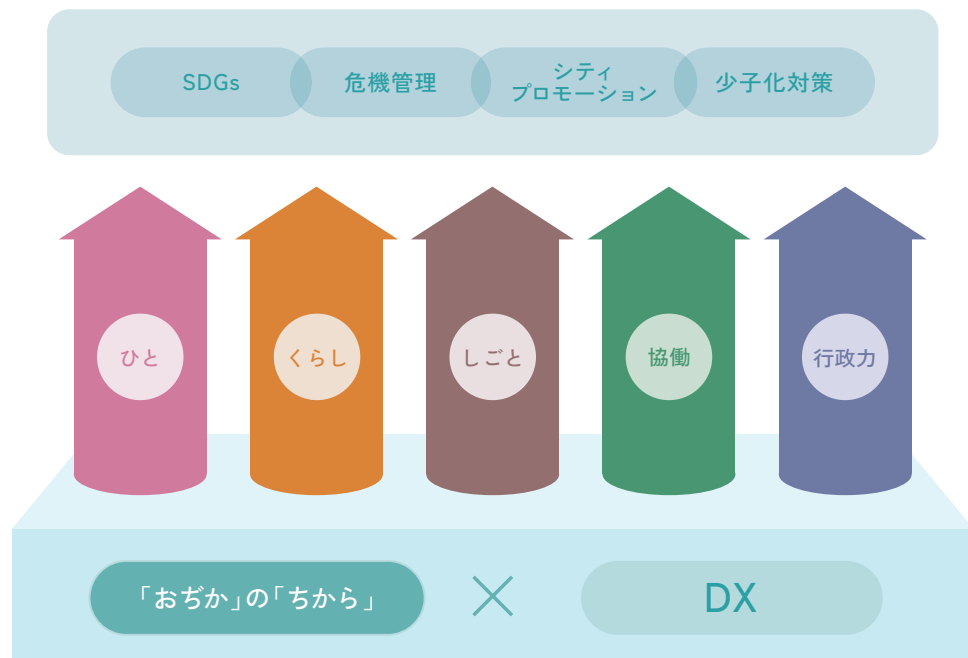
2. おぢから横断プロジェクト

第2章「3.配慮すべき社会の流れ」に記載している「SDGs」「危機管理」「DX」「シティプロモーション」「少子化対策」5つの課題やテーマについては、範囲が極めて広く、また問題が複雑・横断的に絡み合っており、解決のためには取組む側もそれぞれの主体が横断的に連携し、多角的に対処しないと解決できないものばかりです。

役場庁内はもちろん、町民、地域、団体、企業、行政など、町内横断的に取り組んでいきたいものをプロジェクトとして方向性を整理しました。

おぢから横断プロジェクトの「おぢから」とは、「おぢか」の「ちから」を合わせて、課題を解決していこうという想いを込めて名付けています。

本計画では方向性を示し、計画がはじまる令和6年度から順次取組みを進めていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



**「おぢか」の「ちから」を合わせて、
DXを活用し、横断的に取り組んでいきましょう!**



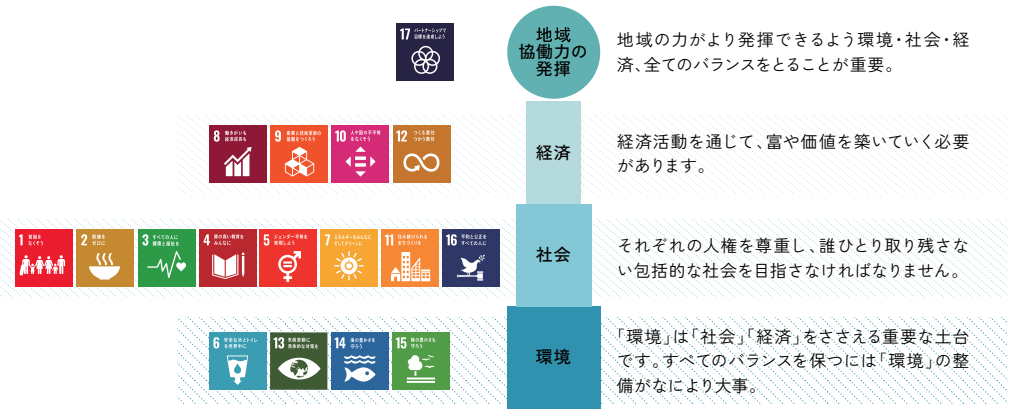
(1) SDGs

SDGsは、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」のことです。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット(達成基準)から構成されます。

それらは、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することが目標とされています。

SDGsの理念は、本計画の施策の方向性とも重なっており、本計画の着実な実行がSDGsの目標達成に貢献するものと考えており、町民と共に総合計画の取り組みを推進します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS	ひと			くらし			しごと				協働		行政力		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
貧困をなくそう				👑											
飢餓をゼロに							👑	👑	👑	👑					
すべての人に健康と福祉を	👑			👑											
質の高い教育をみんなに	👑	👑													
ジェンダー平等を実現しよう												👑			
安全なトイレと水を世界中に				👑											
エネルギーをみんなにそしてクリーンに				👑											
働きがいも経済成長も			👑	👑	👑	👑	👑			👑	👑		👑	👑	
産業と技術革新の基盤をつくろう				👑	👑								👑		
人や国の不平等をなくそう				👑								👑	👑		
住み続けられるまちづくりを	👑	👑	👑	👑		👑					👑	👑			👑
つくる責任つかう責任				👑	👑	👑	👑	👑	👑						
気候変動に具体的な対策を				👑		👑									
海の豊かさを守ろう							👑	👑							
陸の豊かさを守ろう							👑								
平和と公正をすべての人に		👑		👑	👑					👑			👑	👑	
パートナーシップで目標を達成しよう	👑	👑													

(2) 危機管理

① 現状と時代の潮流

- ・日本各地で大雨、洪水、台風、地震等による災害が発生しており、気候変動の影響による自然災害の頻発・激甚化が懸念されている
- ・人口減少・少子高齢化の影響により地域コミュニティの衰退が懸念されている
- ・災害の規模が大きくなればなるほど公助には限界があることから「自助、共助の重要性」を認識し、家庭や学校、地域での防災力の強化に繋がる取組が重要となる。
- ・コロナ禍により災害発生時の避難所においても感染症対策が重要となった
- ・日常的な自主防災力を高めつつ、防災訓練や講習会等への町民・事業者・地域の積極的な参加が重要となっている

② 今後の課題

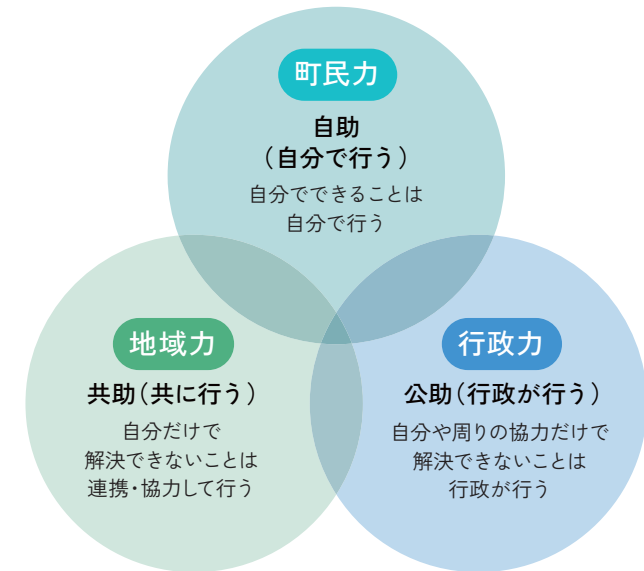
- ・自助・共助・公助の役割を適切に踏まえ、公助と共に「自助、共助の重要性」の認識を高め防災力の強化に繋げる
- ・自主防災組織の活動に対する支援
- ・防災訓練や講習会への町民・事業者・地域の積極的な参加を促し、防災意識及び防災力の向上へと繋げる
- ・災害発生時における避難所・福祉避難所の開設や運営、感染症対策を含めた良好な生活環境の確保
- ・少子高齢化による地域防災の中核である消防団員の確保
- ・避難施設の維持・管理

町民・事業者・地域団体・行政が連携・協力しながら地域の強靱化を推進し、どのような大規模自然災害にも立ち向かえる、強靱な小値賀町を構築し災害に備える。

③ 将来像(目指す姿)

- 1 人命の保護が最大限図られる
- 2 インフラ破損等で町が孤立せず、町及び地域社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持される
- 3 町民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- 4 迅速な復旧復興
- 5 町民同士が助けあい、誰一人取り残されることのない地域社会の確立

④ 自助・共助・公助による取組



自助 町民力

- ・家具の固定や屋根瓦の改修など自宅を強靱化
- ・防災訓練や講演会など防災活動へ参加し防災意識を高める
- ・断水等に備え食料や飲料水等の備蓄、避難の際の非常持出品の備えなど、備蓄品及び防災用品等を備える
- ・日頃の健康管理を徹底する

共助 地域力

- ・地域が共同で避難場所を開設、運営するなど地域の防災力を向上させる
- ・地域の安全点検活動を行い、危険空家、危険ブロック等を解消することで安全な地域の生活環境を整える
- ・日常の助け合い活動に地域ぐるみで参加しコミュニティの維持、強化に取り組む
- ・地域協働の復旧作業を行える体制を確立する

公助 行政力

- ・避難所等防災拠点の整備や防災物資の備蓄等、防災力を強化する
- ・道路、橋梁、港湾、住宅等の公共財の長寿命化を実現し、減災と発生時の資源として活用できる環境を構築する
- ・住民生活の迅速な再建に必要な行政機能を確保するために行政計画を策定する
- ・情報通信機能を強化する
- ・地域産業の振興により自給率を高め地域力を強化する

(3)DX

①現状と時代の潮流

- ・国では、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会として、IoT (Internet of Things) ですべてのモノと人をつなげるほか、AI (人工知能) やロボットなどを活用することで、少子高齢化や過疎化などの課題克服を目指す構想である「Society5.0」の実現を目指している。
- ・コロナ禍によりデジタル化の遅れなど様々な課題が顕在化したことにより、進化したデジタル技術を活用し、人々の生活をより良いものへと変革させるDX (デジタルトランスフォーメーション) の推進が強く求められている。
- ・本町においても、デジタル技術の利活用による行政事務の効率化や行政サービスの向上、地域課題の解決、地域経済の活性化・産業振興を目指していく。

②今後の課題

- ・デジタル技術の利活用において必要不可欠となる光ファイバ等の情報通信基盤の整備
- ・高齢化が進む中で、だれもがデジタル技術の活用による恩恵が受けられる社会の構築
- ・デジタル技術やAI等を活用して、行政サービス・町民の利便性を向上させるとともに、業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上につなげていくこと
- ・労働力人口 (生産年齢人口) の減少が進む中、地域産業の活性化を進めるため、デジタル技術を活用し、水産業、農業、商工業、医療・介護、教育、交通など、あらゆる産業・生活分野において、分野横断的な視点を持ち、技術革新による新たな価値の創出を図るとともに、地域課題の解決に取り組むこと

町民・事業者・地域団体・行政がそれぞれの立場でデジタル化に取り組み、互いに連携が図られるようDXの推進に向けた環境整備・人材育成などに取り組む

③将来像 (目指す姿)

- 1 全島民がデジタルの恩恵を受ける社会の実現
- 2 スマート行政の実現による業務効率化と質の高い町民サービスの提供
- 3 民間分野のデジタル化による生産性・利便性の向上

④推進体制

DX推進ワーキンググループを中心として、全体方針の策定・評価を行うとともに、分野ごとの地域課題の解決を図る。



⑤施策の方向性と主な取り組み

・誰一人取り残されないための取組

- ひと** 町民・島外者それぞれの方に対する利用者視点でのサービスデザイン体制の確立
- くらし** 2次離島におけるマイクロ無線の整備など、デジタル共生社会実現のための環境整備
- くらし** 高齢者向けスマートフォン講座など、町民全てがデジタルサービスを利用できる「人にやさしいデジタル化」の実践

・自治体DXの推進による町民サービスの向上・業務効率化

- しごと** デジタル人材の確保・育成による自治体DXの推進
- 行政力** 情報システムの標準化・共通化、テレワークの推進、AIやRPAの導入、BPRの徹底による行政の効率化
- くらし** 行政手続きのオンライン化、書かないワンストップ窓口の実現など、フロントヤード改革の推進
- 行政力**
- くらし** 国・県と連携したマイナンバーカードの活用促進
- 行政力** セキュリティ対策の徹底による安全性・利便性の両立を追求するネットワーク環境の構築
- 協働** オープンデータの充実による町民・事業者・行政等での積極的な活用を促進
- 行政力** 分野横断的な情報の集約による所属間の連携強化 (例:医療+介護+保健、教育+子育てなど)

・デジタル実装の取組の推進・地域のデジタル化

- くらし** ICT活用による公共交通ネットワークの整備と新たなモビリティサービスの導入
- くらし** オンライン診療体制の構築
- ひと** 教育DXをはじめとする子育て・教育政策の充実
- しごと** 介護ロボットなどの導入による労働環境の改善
- しごと** スマート農業・水産業の推進による省力化や所得向上
- しごと** 拠点整備によるワーケーション・リモートワークの推進
- しごと** キャッシュレスサービスの導入による町民の利便性向上

(4) シティプロモーション

① どんこんおぢか大作戦

「どんこんおぢか大作戦」とは、とっておぢかが好きな人・とっておぢかが大切な人にスポットをあて、その人たちが町で活躍することで魅力発信につなげるべく、「とっておぢか」を町民に馴染みのある小値賀弁の「どんこんおぢか」とし、親しみやすい活動にするために大作戦としました。

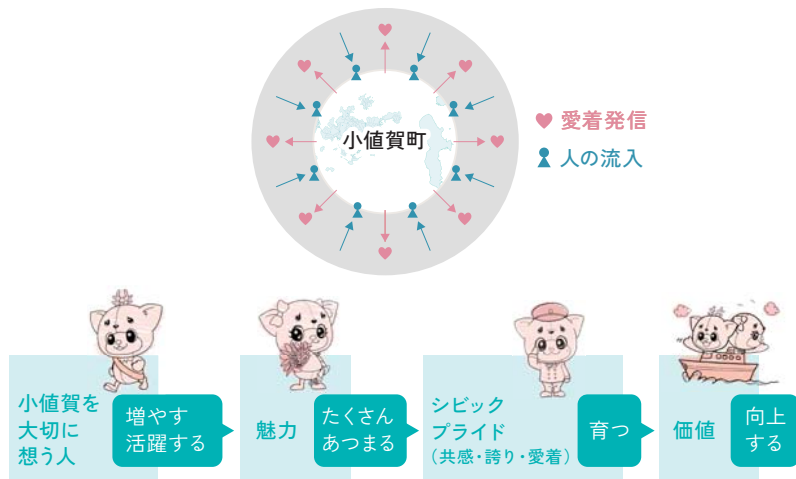
目的1: シビックプライドの向上

都市や地域への愛着と誇りを指すシビックプライドには、自身が主体的に活動し、その地域をより良い場所にしていく「当事者意識」が大きな意味を持ちます。

町民はもちろん、島外の方も積極的にまちづくりへ参画できる環境と心を育てていきます。

目的2: 小値賀町ブランドの確立

地域の商品・文化・観光資源などの「地域の魅力」を活かしてイメージを向上する地域ブランディングの考えを取り入れ、アイデンティティの明確化によるシビックプライド向上に寄与します。



交流人口、関係・活動人口、定住人口の増加につなげる

② シティプロモーションの評価指数

取り組みの成果を測るツールとして、町一人一人が自信や誇りをもちやすくなるために小値賀町のオリジナルで「どんこんおぢか指標」を設定し、取り組みを評価します。

町民の方々がただの取組だけの評価としてとらて活動が他人事にならず、自分事としてとらえられるように評価の表現を人寄りの表現にしました。

③ 現状の課題

「魅力発信の環境が整っていない」ことによる戦略的で効果的な魅力発信の機会の喪失、そして「魅力に気づいていない・誇りを感じにくい」という課題があります。

本町には美しい海や豊かな自然など魅力が多くありますが、可視化された「おぢかといえ」が少ないのが現状です。これらの要素が、おぢか愛を持つ人材の減少を引き起こしていると考えられます。

④ 取り組みの理念とその柱

小値賀のありのままの魅力を楽しく届け 愛着を育てる

発信

情報発信の基盤の強化

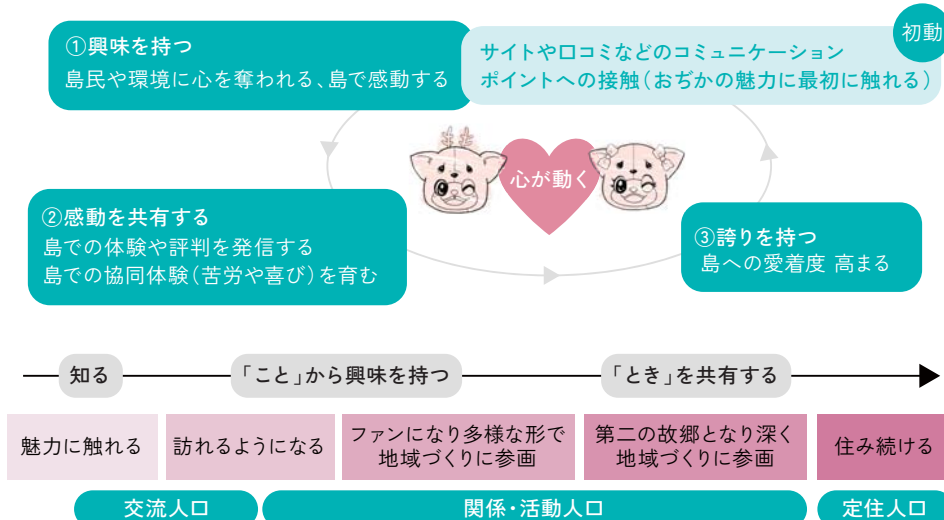
小値賀町への愛着の共感を内外で育てる

共感

コミュニケーションポイントの増加

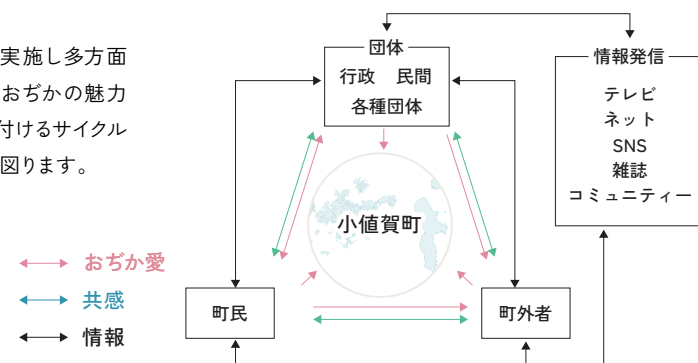
シティプロモーションの活動理念として、上記を掲げ、「発信」と「共感」のキーワードを柱とします。まずは、情報基盤の土台をしっかりと固め、小値賀のありのままの魅力を広く発信する体制を整えます。そして、町内・島外の人々の小値賀への興味も、愛着として育てられる策をつくります。人々の関心と小値賀町をつなげる「コミュニケーションポイント」を増やしていく取り組みの軸を掲げます。

⑤ 島外民へのアプローチの循環図



⑥ 取り組み体制

町民を中心とした活動を実施し多面的に情報発信を行うことで、おぢかの魅力を拡散し、移住・定住に結び付けるサイクルを確立させて、課題の解決を図ります。



(5) 少子化対策

「超」少子高齢化社会とっていい町の現状を抜本的に打開していくためには、町の存続がかかっているという危機意識を、行政と町民全体が共有し、協働の行動につなげていくことが大切です。

そのために、少子化対策の課題や問題点を構造的に理解し、横断的に取り組み・施策・事業を推進する体制の構築が求められます。

